

# 小松市 高堂二反田遺跡の発掘調査概要

たかんどうにたんだ

(公財) 石川県埋蔵文化財センター



—歴史と出会う場所—

調査地 小松市高堂町地内  
 調査原因 地方道改築事業 一般県道粟生小松線  
 調査主体 石川県教育委員会 (調査担当: 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター)  
 調査期間 令和6年7月29日~同年12月末  
 調査面積 1,950 m<sup>2</sup>

高堂二反田遺跡は、小松市北西部の八丁川流域に位置しています。発掘調査の結果、平安時代前期(9世紀前半)を中心とする集落遺跡であることがわかりました。

東半部(A~C区)の調査では、平安時代の掘立柱建物の柱穴、溝のほか、江戸時代以降の耕作痕(足跡)などを確認しました。遺物は平安時代(9世紀頃)の須恵器、土師器などの土器や木製品が出土しました。

西半部(D・E区)では、古墳時代後期の水田跡、掘立柱建物の柱穴、須恵器の壺や土師器の坏などの土器がまとまって出土した土坑などを確認しました。

本遺跡の東側には高堂遺跡があります。昭和54~56(1979~81)年度に国道8号線建設に伴う発掘調査が行われ、平安時代(9世紀頃)の掘立柱建物約20棟、仏教の教えで国を守ることを説いた重要な経典名が書かれた木簡、和同開珎、神功開宝などの皇朝銭約60枚を埋納した土坑、「隆」「改吉請」などを記した墨書土器約180点などが発見されました。これらの内容から、能美郡衙あるいは寺院などに関わる施設とみられ、今回調査した高堂二反田遺跡も高堂遺跡と強い関係をもっていたと考えられます。

おかげさまで、7月末から開始した発掘調査が無事に終了しました。ご協力ありがとうございました。



調査区遠景(西から)

## 高堂遺跡の出土品

「金光明最勝王經四天王護國品」

隆、改吉請



木簡



皇朝銭を埋納した土坑



和同開珎、神功開宝



高堂二反田遺跡と周辺の主な遺跡(地理院地図を改変)

西暦	時代	日本の動き	石川県の動き	主な周辺遺跡
10000年	新石器	土器の出現 農耕の形成	丘陵上で石器を使った生活が始まる 定住的な生活のはじまり 大型掘立柱住居が出現する 巨大木柱列がつけられる	
3000年 B.C A.D	縄文	農耕文化が広がる 金属器の使用 新島台地の成立	方形竪穴・竪穴住居の出現 低地で平地式住居がつけられる	八日市地方遺跡 一針B遺跡
2500年	古墳	大形古墳がつけられる 銅器製の生産がはじまる	玉造集落の形成 四方後円墳がつけられる 横穴式石室がつけられる	千代・能美遺跡 能美古墳群
710年	奈良	平城京へ遷都	兼世園の設置(718) 大伴家持の兼世園(748)	
794年	平安	平安京へ遷都	鎌倉園の設置(823) 鎌倉園・徳意に園分舎が設置される 加賀郡跡がたてられる(849) 山内信房が寺人となる 中世農業への開墾生産始まる	高堂遺跡 高堂二反田遺跡
1192年	鎌倉	鎌倉幕府の成立	白山・石動山などの山岳信仰盛んとなる 酒町を中心として集落が発達する	白江梯川遺跡
1338年	室町	室町幕府の成立	山城が築かれる 加賀一向一揆がおこる	
1573年 1603年	安土桃山 江戸	室町幕府の滅亡 江戸幕府の成立	前田利家の金沢入城 山中町九針で城郭を築き始める	小松城跡
1868年	明治	明治維新 第二次世界大戦	石川県の誕生(1872)	

高堂二反田遺跡と周辺の遺跡年表

# 高堂二反田遺跡の調査概要



発掘作業風景 (E区)



平安時代の土坑 (E区 SK02)



掘立柱建物の柱穴 (A区)



水田跡の発掘作業風景 (D区)



古墳時代後期の水田跡 (D区 SX06)



溝から出土した須恵器 (C区 SD01)